



「協働研究」報告書

2025 年 2 月 28 日

1. 基本情報

研究代表者 氏名: 永井 久美子	所属部局: 総合文化研究科・准教授
題目(和文・英文)	
(和文)「顔」は何を語るのか——過去から未来へ (英文) Change in Facial Preferences through Reality, Art and Literature	
概要	
<p>「顔」をはじめとする容姿は、どのような価値観を生み出すのか。本協働研究では、現実の「顔」のほか、文学や絵画に描かれた「顔」に対する感覚や評価が、人々のものの見方や考え方にどのような影響を及ぼし得るのかを、多様な観点から追究した。代表者がこれまでに行ってきた比較文学研究の知見を踏まえつつ、協働研究により、歴史学や哲学などの人文諸学の方法を用いた考察にも研究の幅を広げ、自然言語・画像解析、心理実験・調査といった自然科学的手法による定量的検討を行った。</p> <p>協働研究では、参加者が関心を持つ題材をそれぞれ自由に取り上げ、他分野の研究者との議論を通して新たな研究の局面を開拓していったほか、摂関や大臣などの公卿ら 57 人の肖像が並ぶ鎌倉時代の絵巻「公家列影図」(重要文化財、京都国立博物館蔵)についての調査を協力して実施した。描かれた顔に対し鑑賞者が抱く印象の定量分析と、価値判断の背景をめぐる定性研究の双方があってこそ、新たな研究を実施できたものと考えている。</p> <p>助成期間中にオープンセミナーを 6 回開催し、内容を HMC ブックレットにまとめたほか、日本心理学会第 87 回大会では、学外研究協力者である上田竜平氏(京都大学助教)を筆頭著者とするポスター発表を行い、共著論文の掲載が査読付学術雑誌 <i>Perception</i> に決定しているなど、口頭ならびに活字での研究成果の発信に努めた。東京大学「人文社会ウィーク」、東京大学オープンキャンパスのイベントとして開催したオープンセミナー各回もあり、高校生などの若手を含め、研究を広く知ってもらえたと考えている。</p> <p>オープンセミナーには、ゲストの講演者やディスカッサントを招いた回もあり、特に中世和歌を専門とする石井悠加氏(四国大学講師)には複数回のセミナー参加に加え、「公家列影図」の調査にあたっても多大な協力を得た。本協働研究には東京大学と京都大学の URA も参画しており、研究大学コンソーシアムの推進する、分野および機関の枠を超えた共同研究支援 DX「MIRAI プロジェクト」の実践例としても有意義なものとなったと言える。人間が顔から何を読み取りがちであるのか、現代における傾向は何かを客観的に分析し、その歴史的背景を考察したことは、外見の多様性を尊重するうえで必要とされる研究であるだろう。</p>	

2. 研究分担者・研究協力者

研究分担者

高岸 輝(人文社会系研究科・教授)
 梶谷 真司(総合文化研究科・教授)
 鈴木 敦命(人文社会系研究科・准教授)
 出口 智之(総合文化研究科・准教授)
 中村 覚(史料編纂所・助教)
 笠原 真理子(HMC 助教)
 水野 博太(HMC 特任研究員)

学内研究協力者:

平澤 加奈子(史料編纂所・URA)

学外研究協力者:

鈴木 親彦(群馬県立女子大学 文学部・准教授)
 上田 竜平(京都大学 人と社会の未来研究院・助教)
 藤田 弥世(京都大学 学術研究展開センター・URA)

3. 研究成果

【書籍】

- ・『Humanities Center Booklet Vol. 24 「顔」は何を語るのか——過去から未来へ』
永井久美子、水野博太、出口智之、石井悠加、藤田弥世、鈴木親彦、梶谷真司
東京大学ヒューマニティーズセンター、2024年12月

【論文】

- ・“Trait judgments of medieval Japanese illustrated portraits”
Ryuhei Ueda, Atsunobu Suzuki, Akira Takagishi, Chikahiko Suzuki, Kumiko Nagai
Perception (査読済、掲載確定)

【関連口頭発表】

- ・「日本中世に描かれた人物顔貌に対する特性判断——valence-dominance モデルの適用可能性の評価」
上田竜平、鈴木敦命、高岸輝、鈴木親彦、永井久美子
日本心理学会第87回大会、於・神戸国際展示場、2023年9月17日 ※ポスター発表
- ・第87回 HMC オープンセミナー「「顔」は何を語るのか——顔貌コレクションの活用と展望」
オンライン開催、2023年3月6日
高岸輝「美術史学における「顔」——肖似性と様式分析」
鈴木親彦「顔貌コレクションを利用した人文学研究——「遊行上人縁起絵巻」清浄光寺甲本を軸に」
ディスカッサント: 上田竜平、中村覚
※東京大学「人文社会ウィーク」(3/6~3/12)イベントとしても開催
- ・第93回 HMC オープンセミナー「「顔」は何を語るのか——漫画と絵巻における顔貌表現の心理学」
オンライン開催、2023年6月1日
上田彩子(日本女子大学人間社会学部 准教授/漫画家)「漫画における顔の表現——魅力的なキャラクターとは?」
上田竜平「絵画作品に描かれた人物顔貌の特性判断」
ディスカッサント: 高岸輝、鈴木親彦
- ・第94回 HMC オープンセミナー「ヒューマニティーズセンターって何?——若手研究者の活動、紹介します」
オンライン開催、2023年8月2日
笠原真理子「オペラとマンガ——容姿の描写から考えよう」
水野博太「儒教と顔——こういう時、どんな顔をすればいいですか?」
ディスカッサント: 梶谷真司
※東京大学オープンキャンパスイベントとしても開催
- ・第108回 HMC オープンセミナー「解説・公家列影図——血筋・才能・個性と鎌倉時代のキャラクターデザイン」
オンライン開催、2024年3月25日
石井悠加(四国大学文学部 講師)
司会・ディスカッサント: 永井久美子
ディスカッサント: 高岸輝、黒田智(早稲田大学社会科学総合学術院 教授)、上田竜平
- ・第122回 HMC オープンセミナー「小林照子の印象分析論」
オンライン開催、2024年10月22日
講演: 小林照子(美容研究家・メイクアップアーティスト)
司会・ディスカッサント: 永井久美子
ディスカッサント: 上田竜平、梶谷真司

【その他】

4. 今後の研究の展望

本協働研究の成果をまとめたHMCブックレット Vol. 24 は、献本先等の各所からも好評であった。査読付学術誌 *Perception* に投稿した共著論文も掲載が決定し、刊行が待たれるところである。

2024年12月がHMCにおける助成期間の区切りであったが、本プロジェクトの学外研究協力者であった上田竜平氏を代表者として、京都大学学術研究展開センターおよび研究推進部が運営するスモールアイランド型研究領域支援事業・新領域創生研究支援事業「SPIRIT2」の支援も受け、2024年4月から2年間の予定で、新たな研究を開始している。研究メンバーとの協力は今後も継続してゆきたいと考えており、「顔」をめぐる諸問題、外見描写と内面評価の相関性についての研究をさらに進めてゆきたいと希望している。

SNSにおけるアイコン等、ネット上に流布する画像からの人物イメージ形成や、選挙ポスター等の顔写真から下される対人評価など、身近なところで行われている価値判断のあり方について、その背景を歴史的経緯から読み解くことは、現代日本における価値観の特質を明らかにする、意義ある研究となると考えている。